

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【奨励】「実を結ぶ人生のために——種まきのたとえから」

皆さんは、実を結ぶ人生のために備えられた「人生の畑」を耕し、肥沃に作り上げていく『青年期』を酪農学園大学で過ごしています。固くなった土を耕すときの変化や痛み、水や栄養分を吸収するときの苦労、そして様々な障害物を取り除く大変さを乗り越えながら、日々学びのときを重ねていることでしょう。

心理学者エリクソン(Erikson、1902～1994)は、『青年期』の主な特徴として「自己探求」と「心理社会的モラトリウム(猶予期間)」を挙げました。つまり『青年期』とは「自分とは何者か」「将来どう生きていくのか」を思い悩み、模索する時期なのです。それと同時に、大人としての社会的な責任や義務は一時的に猶予され、自分探しや価値観の模索が許されている期間でもあることを指しています。

酪農学園の創立者黒澤酉蔵の『健やかなる土』という文章があります。「健康な国民は健康な食生活から、健康な食生活は健康な食糧から、健康な食糧は健康な農業から、健康な農業は健康な土地から、健康な土地は健康な農民から、健康な農民は健康な心身から、まず、心田を肥沃健康にせよ」。

よい土地に落ちた種は百倍、六十倍、少なくとも三十倍の実を結ぶというイエス様の「種を蒔く人」のたとえから『三愛精神』と『健土健民』を学び、心田を肥沃に自らの『人生の畑』で豊かな実を結ぶ道を歩んでいくのでしょうか。



【Vincent Van Gogh『種まく人』1888年、油彩⇒】

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

礼拝では学生・教職員有志による聖歌隊が合唱をします。礼拝の前と後にオルガン前で練習をしています。歌ってみたい学生・教職員は練習にお越しください。参加できるときに一緒に歌ってくださることも可能です。

【次回の大学礼拝】2026年10月20日（火）10時40分

聖書：ヨハネによる福音書6章48-51節

奨励：「人を生かすもの——身体と精神の糧」小林昭博（宗教主任）

讃美歌：21-532番、21-18番

【前回の大学礼拝（後学期始業礼拝）】2026年10月6日（火）

学生：129名 教職員：9名 合計：138名

【大学礼拝週報】2026年度 第18号（後学期第3号）

2026年10月13日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

司式 小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）
奏楽 佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）
讃美指導 相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前奏 ただ神により頼む者は（クレープス作曲）

讃美歌 21-46番（すべての人よ）〔4回繰り返す〕

聖書 マタイによる福音書13章1-9節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨励 「実を結ぶ人生のために——種を蒔く人のたとえから」

祈り 朴 美愛（学園宗教主事）

讃美歌 21-514番（美しい天と地の造り主）

報告

後奏 いと高きみ神にさかえあれ（ツァッハウ作曲）

【本日の聖書】マタイによる福音書13章1-9節（新共同訳）

「¹その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。²すると、大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸边に立っていた。³イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。⁴蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。⁵ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。⁶しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。⁷ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。⁸ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。⁹耳のある者は聞きなさい。」